

## <主な意見>

### ●コンセプトボード

- ・いろいろな人の中に多様な性表現(SOGIESC)の人がいるとわかるものになれば良いと思う
- ・どういう人がどういうことに困っているのかを具体的に表現することが大切
- ・外見でお困りごとがわかりにくい人に対しゆずり合いの精神が生まれるメッセージになると良い

### ●ピクトサイン

- ・男女共用トイレブースには男女共用のピクトが必要、色は白黒が良い
- ・ブース7、8は並び列の先頭から遠いので、ピクトを大きくしてはどうか
- ・弱視の方は壁突き出しのピクトだけでは判別できない。入口近くの見えやすい位置(高さ150cm位)にもピクトが必要。また、男性用小便器と女性専用トイレブースを間違えないように、女性専用トイレブースのピクトは赤色にしたほうが良い

## ○ 満空表示モニター

2024年10月15日ワークショップ(第11回)では、モニターに表示する満空表示の内容について説明した。あわせて、入口サインとモニターの設置高さについて、現地で検証した結果を報告した。



ワークショップの様子

満空表示の案は、ブースの便器マーク部分を青色に表示としていたが、「空きと使用中の両方がわかりやすく、かつ色と記号のどちらでも判断できる方が良い」という意見を踏まえて、空きは「青い○」、使用中は「赤い×」の表記とした。



ワークショップで提案した満空表示モニターの表示案



完成した満空表示モニターの表示

## ○ 入口サインとコンセプトボード

入口サインは、トイレ名称とピクトサインの組み合わせを当初案としていたが、「今までとは違うチャレンジングなものにしよう」という発想から、ピクトサインを並べるのではなく、いろんな人の横並び又は輪で表現することで、コンセプトを伝える案(A案、B案)を作成し、メールで意見照会した。



## ○ 完成したみんなトイレ

### <特徴>

入口は一つ、空間も一つの共用トイレ。全てが共用のトイレブースという考え方で、女性用と男性用も選択できる機能があるブースとして用意した。

以下、特徴を記載する。

- ・共用ブースは3種類の大きさの8つで、共用(小)4つ、共用(中)2つ、共用(大)2つを設置し、さらに選択できる機能のひとつとして女性用ブース2つと男性用小便器2つを設置
- ・共用ブースはオストメイトやおむつ替えシート、大型ベッド等の機能を分散するだけでなく、同じ大きさのブースでは、手すりや便器、大型ベッド等の位置が左右対称となるよう配慮
- ・利用者が必要な機能を有するブースを選びやすいようにブースの扉の横にピクトサインを設置、共用(小)には、手すりの左右の位置がわかるピクトサインも設置
- ・扉の色は壁と区別しやすい色とし、共用(小)と女性用の扉は内開き扉とした
- ・視覚障がい者から音声でトイレの空きがわかる案内が必要と意見があり、満空表示モニターでの音声案内等を検討したが実現できなかった
- ・各ブースの使用状況がわかる満空表示案内モニターを設置し、モニター前の床に並び列の先頭を示す足跡マークを表示
- ・共用ブース前の通路の右奥にベンチを設置
- ・混雑時、空いたブースをゆずりあってもらえるように、このトイレの想いを伝えるコンセプトボードをトイレの入口に掲示
- ・ベビーケアルームは子どもブース、おむつ交換台2つ、調乳用温水器、授乳室、ベンチを設置



完成したみんなトイレのプラン



完成したみんなトイレ



トイレブースのピクトサイン  
(画像提供:TOTO)



左に手洗器、正面壁に満空表示モニター、床に並び列の先頭を示す足跡マーク、右には共用ブースが並ぶ



みんなトイレの入口



ベビーケアルーム (画像提供:TOTO)

## 2.2.3 会期中の使われ方と評価

アンケートや調査の結果をもとに、会期中の使われ方と評価を記載する。

### ○ 使用回数

便座の着座回数記録やトイレブース扉の開閉記録から、会期中のトイレのブースの使用回数は、共用（小）ブース3、4と女性ブースの使用回数が多く、1時間あたりの使用回数は10～14回であった。一方で使用回数が少なかったのは、共用（大）ブースで、1時間あたりの使用回数は5～6回であった。また、子どもブースと授乳室は1時間あたり1回であった。これらから、会期中は概ね混雑することなく使用されていたことがわかる。

### ○ 滞在時間

人流調査から、トイレ利用の滞在平均時間は、一般的な平均滞在時間よりも長い傾向であった。一般的なトイレでは女性トイレが2分、男性トイレが50秒から4分20秒とされているが、みんなトイレは4分弱だった。みんなトイレは、これまでにない試みのトイレだったことから、興味深くトイレを見られた人もいたと推測される。また、利用者の約4割が「女性用ブースと共用ブース」、「男性用小便器と共用ブース」といった2つのブースゾーンにわたり回遊しており、その要因として「自分のニーズに合ったブースを選ぶため」または「これまでにないトイレ空間のため戸惑いがあった」という2つが考えられる。

### ○ みんなトイレの感想や意識の変化

みんなトイレアンケート調査では、「みんなトイレを戸惑いや抵抗感なく自然に使えた」との回答が68%で、その理由は「ピクトや満空表示モニターでトイレの使用状況が分かりやすかった」「家族と一緒に使えてよかった」「性別に関係なく誰でも使える」「選択肢があり自分で使いたいトイレを選ぶことができる」等だった。一方で、戸惑いや抵抗感があったとの回答が27%で、その理由は「異性がいることへの戸惑い」「どのトイレを使用して良いのかわかりにくい」等だった。

「みんなトイレのようなトイレが世の中に増えると良いと思うか」の問いに対しては、「増えると良い」との回答が61%で、広くて使いやすく、家族連れや多様な利用者に配慮されている点が評価されていた。また、「改良・改善されれば増えると良い」との回答が17%で、防犯面の強化が必要というコメントが多かった。防犯面の工夫としては、「通路の見通しが良い」「明るい照明」といった安心できる空間や「緊急呼び出しボタン」「監視カメラの設置」といった安全対策が求められていることがわかった。なお、このような工夫が施された場合、81%の人が利用すると回答した。

また、このトイレを利用して「トイレに対する意識の変化があった」と答えた人は67%であった。

これらのアンケート結果は多くの来館者が「みんなトイレ」を受け入れ、利用を通じてトイレの概念を考えるきっかけとなったことを裏付けた。

## 2.2.4 会期中の改善

現地確認や視察に参加した人からの気づきや提案に対して、できるかぎり対応した。具体的な改善内容は以下のとおり。

### 会期中の改善内容

<p>①アイキャッチの追加</p> <p>共用ブース1～4は親子連れの使用もあることから、子どもが親を待てる工夫としてアイキャッチを追加</p> 	<p>②鍵の開閉サインの追加</p> <p>共用ブース5～8の扉の鍵のレバーは、しっかり真下におろさないと扉を開けられてしまうことがあったため、開（あける）、閉（しめる）のサインを追加</p> 	<p>③カーテンにタッセルを設置</p> <p>共用ブース5～8には、介助者と一緒に入った時に空間を区切るためのカーテンを設置していたが、車いすの車輪に絡まらないよう、タッセルを設置</p> 
<p>④案内サインの追加</p> <p>満空表示モニターの案内サインを入口付近に追加。サインには「トイレの空きは左のモニターで確認できます!」とルビ付きで表示</p> 	<p>⑤手洗いサインの追加</p> <p>車いすでの利用方法を示すサインを床に設置、手洗い方法を示すサインを器具の前面に設置</p> 	<p>⑥ナビレンスコードの追加</p> <p>入口入って正面のコードが、入口から読み取りにくいので、ブース番号の下側に追加</p> 

### 改善場所



### 改善内容

- ① アイキャッチの追加
- ② 鍵の開閉サインの追加
- ③ カーテンにタッセルを設置
- ④ 案内サインの追加
- ⑤ 手洗いサインの追加
- ⑥ ナビレンスコード\*の追加  
(\*49ページ参照)

## 2.2.5 会期中の調査

---

会期中には、以下、4つの調査を実施した。

### ① みんなトイレアンケート調査 (TOTO (株) の協力のもと実施)

- ・実施日 2025年8月23日(土)・24日(日)・25日(月)・28日(木)・29日(金)計5日間
- ・調査対象 「みんなトイレ」利用者
- ・調査方法 TOTO (株) の調査員がトイレ前に待機し、トイレを利用して出てきた利用者にインタビュー形式で実施
- ・回収数 400人
- ・調査項目 ①みんなトイレ使用回数、②みんなトイレ抵抗感有無、③使用したブース、④ブース選択時に役立ったもの、⑤コンセプトボードを読んだか、⑥使って感じたこと、⑦世の中に増えると良いと思うか、⑧安全安心に使えるための工夫、⑨今後利用意向、⑩「オールジェンダートイレ」という言葉の認知、⑪トイレで困ったことの有無、⑫トイレに対する意識の変化
- ・調査内容及び調査結果は資料編を参照

### ② 人流調査 (TOTO (株) により実施)

- ・実施期間 2025年7月～2025年8月 2か月間(62日)
- ・調査対象 共用(小)、共用(中)、共用(大)、女性、男性、ベビーケアルーム 計6ゾーン
- ・調査方法 AIBeacon\*によるエリア検知・追跡による人流調査
  - \*AIBeacon:専用アプリの有無やBluetoothのON/OFFに関わらず、多くのスマートフォンの電波を観測することができる機器
- ・調査結果は資料編を参照

### ③ 利用回数調査 (TOTO (株) により実施)

- ・実施期間 2025年4月13日(日)～2025年10月13日(月) 184日間
- ・調査対象 共用(小)、共用(中)、共用(大)、女性の各ブース 計10か所
- ・調査内容 便座の着座回数、ビデ洗浄の使用率と回数、擬音装置/温風乾燥\*の使用回数
  - \*擬音装置は共用ブース(小)と女性ブース、温風乾燥は共用(中)と(大)に設置
- ・調査結果は次ページ及び資料編を参照

### ④ トイレブース扉の開閉記録 ((株) シブタニにより実施)

- ・実施期間 2025年4月13日(日)～2025年10月13日(月) 184日間
- ・調査対象 共用(小)、共用(中)、共用(大)、女性、子どもの各ブース、授乳室 計12か所
- ・調査内容 トイレブース扉の鍵を開閉した回数
- ・調査結果は次ページ及び資料編を参照

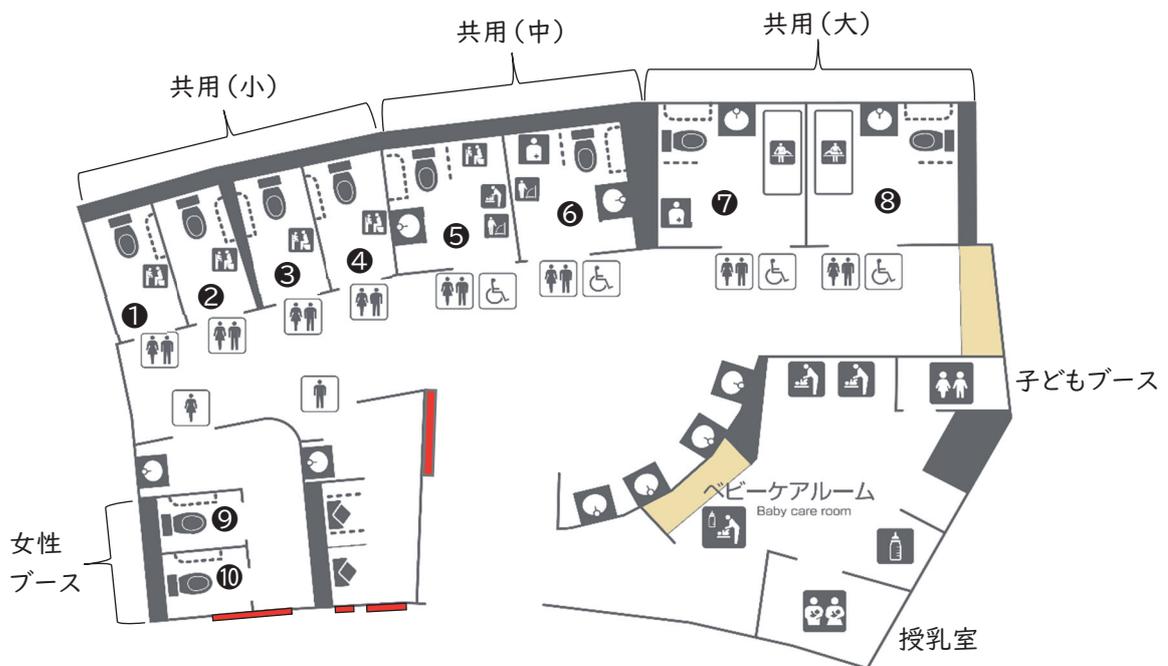
便座の着座回数とトイレブース扉の開閉回数の記録

単位：回

項目	番号	便座着座回数 (A)			扉開閉回数 (B)			差 (B) - (A)	
		総回数	1日平均*1	1時間平均*2	総回数	1日平均*1	1時間平均*2	1日平均	1時間平均
共用(小)ブース	①	20,173	110	9	20,679	112	9	2	0
	②	20,376	111	9	21,978	119	10	8	1
	③	23,653	129	11	24,123	131	11	2	0
	④	26,758	145	12	29,857	162	14	17	2
共用(中)ブース	⑤	13,729	75	6	16,519	90	8	15	2
	⑥	13,966	76	6	16,939	92	8	16	2
共用(大)ブース	⑦	10,453	57	5	12,986	71	6	14	1
	⑧	9,065	49	4	11,137	61	5	12	1
女性ブース	⑨	26,543	144	12	25,026	136	11	-8	-1
	⑩	23,452	127	11	22,956	125	10	-2	-1
小計	-	188,168	1,023	85	202,200	1,099	92	76	7
子どもブース	-	-	-	-	2,173	12	1	-	-
授乳室	-	-	-	-	1,307	7	1	-	-
計	-	-	-	-	205,680	1,118	94	-	-

\*1 1日平均は総回数を会期184日間で計算した1日あたりの回数

\*2 1時間平均は1日12時間として計算した1時間あたりの回数



みんなトイレの平面プラン(ブース番号表示)

## 2.3 カームダウン・クールダウンルーム

カームダウン・クールダウンルームは、日本での設置事例が少なく、事務局も含め初めて知ったという人がほとんどだった。そのため、万博を契機に多くの人に知ってもらうことが重要との認識のもと、カームダウン・クールダウンルームを必要とする当事者に使いやすく落ち着いた設備や内装を選定してもらうことで、モデルとなるカームダウン・クールダウンルームをつくり、それを広く発信する取組みにチャレンジすることとした。

### 2.3.1 当事者による使いやすく落ち着いた設備や内装の選定

2023年11月30日ワークショップ（第7回）で、クールダウン・カームダウンルームを必要とする当事者7名が参加し、1階と2階に設ける部屋の壁面位置を原寸大で床にライン表示し、各種サンプルを用意のうえ、入口の入りやすさ、照明等のスイッチや呼出ボタンといった設備の仕様と位置及び床・壁・天井の内装仕上げについて、確認、選定した。

選定にあたっては、障がいの特性によって、落ち着いた色、鍵や呼出ボタンのカバーの有無等の意見が分かれることもあったが、丁寧に対話を重ね選定した。

#### 確認項目と選定項目の一覧

		項目	確認・選定方法
確認項目	部屋	位置、サイズ	床に壁面位置をテープで表示し体感
	扉	サイズ、種類	カタログ、図面等
	呼出ボタン	器具	カタログ等
	照明	器具（調光等）	カタログ等
	空調	機器	カタログ等
選定項目	床・壁・天井の内装	素材、色	サンプル、カタログから選択
	扉	有無、色、鍵の有無	サンプルから選択
	サイン	位置、デザイン	平面図、パースを参考に検討
	照明	スイッチ位置	スイッチサンプル等により検討
	呼出ボタン	設置位置	ボタンサンプル等により検討
	家具	サイズ/配置	事務イス、ソファー（模造紙）により検討
	その他備品	時計、アイキャッチ等	

#### <扉や設備 サンプルイメージ>



車いすでも使いやすい引戸  
利用状況がわかるスリット窓を設置



扉の鍵をレバー式かつまみ式のどちらが  
使いやすいかサンプルで確認



警備員室につながる呼出  
ボタンの位置を検討

<内装材 サンプルイメージ>



床 タイルカーペット



壁下部 防護マット



天井 岩綿吸音板

<サンプル等で確認する様子>



扉の位置や大きさを確認している様子



呼出ボタンの高さを確認している様子

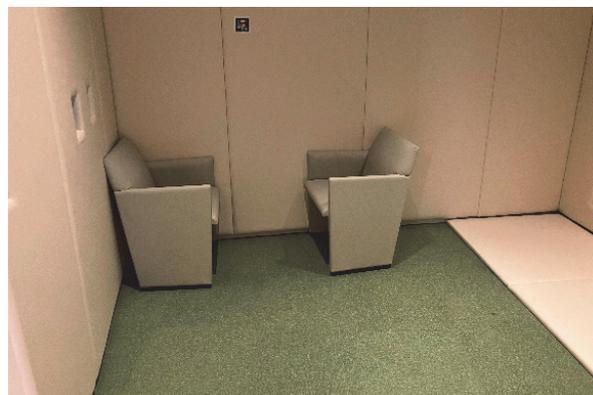
サンプル等選定項目に対する主な意見と対応(抜粋)

項目	主な意見	対応
扉(形状)	・1階の入口は車いすでは何度も切替えないと入れない。開口を広くできないか	・車いすでも利用しやすいよう位置や幅を見直す
扉(鍵の有無)	・鍵は使用中の安全面や使用中に開けられると落ち着かないという安心感の確保のため設置した方がのぞましい ・障がいによっては鍵の開け閉めができない場合もあるので設置しない方が良い	・どちらが良いか結論を出すことが難しかったため、1階と2階で運用を変えて試行していくこととした。 (1階:鍵有り、2階:鍵無しとし、場合によっては扉を開けたままとする)
扉(鍵形状)	・鍵はレバーが大きいものが使いやすい	・レバーが大きいものを採用
呼出ボタン	・発達障がい者や知的障がい者は、反射的に呼び出しボタンを押してしまうことがあるので、カバーを設置したほうが良い ・精神障がい者はパニック時にカバーがあると押したくても押せない可能性がある	・呼び出しボタンはすぐに押せるようカバーは設置しない ・間違っても押しても警備員室とすぐに通話ができるようインターフォンを設置する
照明等スイッチ	・車いす使用者が使いやすい高さが良い	・床から110cmの高さとする
内装仕上げ	・天井や壁、床の色は再度の高い色は避けるべき ・壁と床の色は異なる色の方が良い ・床タイルカーペットは黒色が良い ・床タイルカーペットは黒色だと気持ちが落ちる	・天井と壁、壁に設置する防護マットの色はベージュ系とする ・床は彩度が低いグリーン系の色に決定
横になれるスペース	・室内に横になれるスペースがほしい。その場合は土足禁止にする必要あり ・土足禁止にすると車いすが利用できない	・比較的広い1階にマット等を敷いて横になれるようにする。位置は車いすの利用も考慮し決定
音	・周囲の音が気にならないよう、壁には遮音性能が必要	・1階はアトリウムが近いので、周囲の音が気にならないよう遮音性を確保
家具	・車いす使用者も使うことを考慮 ・利用者が一人とは限らない	・選定や利用方法等は、今回の意見を踏まえ今後運営チームで検討

## 2.3.2 完成したカームダウン・クールダウンルーム

当事者が選定した設備スイッチや内装について、2024年2月29日ワークショップ（第8回）で報告のうえ建築工事を進め、以下のように完成した。

### <1階>



椅子を2脚設置

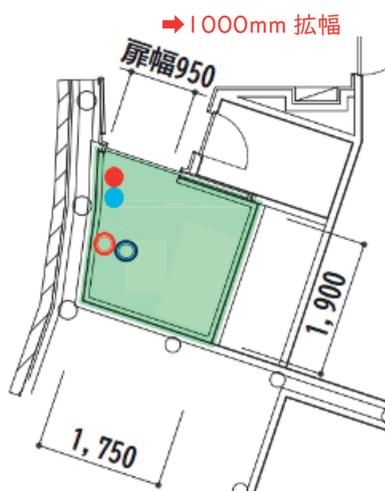


扉の鍵は1階のみ設置し、操作しやすいレバー式を採用



横になれるマットレスを奥に設置

### <2階>



椅子を1脚設置

### <内装>

ワークショップで選定した内装材を採用した。

床：緑系のタイルカーペット

壁：高さ2mまで保護マット、2mより上は同系色の塗装（1階は遮音対応）

天井：岩綿吸音板（1階は天井裏遮音対応）



床のタイルカーペット

## <操作スイッチ>

ワークショップで決定した位置に操作スイッチを設置した。呼出ボタンは上下に設置。



左からインターフォン、呼出ボタン、照明スイッチと空調リモコン

### 平面図の記号の凡例

- 照明スイッチ (設置高 110cm)
- 空調リモコン (設置高 110cm)
- ◎ 呼出ボタン (設置高 110cm)
- ◎ 呼出ボタン (設置高 50cm)

## <照明>

1階、2階ともに、照明スイッチの操作で明るさと色温度を調整できるようにした。



照明 (電球色) 画像提供:TOTO



照明 (昼白色) 画像提供:TOTO

## 2.3.3 会期中のサインの追加

誰でも自由に使える運用としたことから、使用中か空きかがわかるサインを扉の室外側に追加で設置、あわせてルームの趣旨や利用用途を多くの人に知ってもらうための説明サインを室内と室外に設置した。さらに、パニック時に気持ちを落ち着かせる工夫としてアイキャッチを室内に設置した。

また、現地確認時に当事者からアドバイスがあり、「インターフォンは警備員室につながります」「監視カメラで室内の様子を確認しています」のサインを扉と設備スイッチ付近に設置した。



表面が空いています/裏面が使用中のマグネットサイン(扉:室外側)



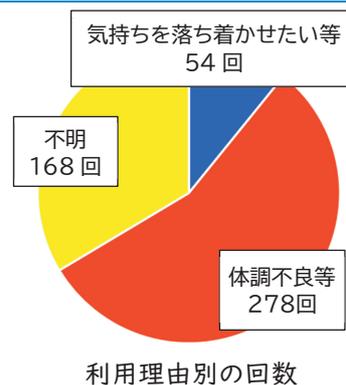
アイキャッチとルームの利用目的を記載したサイン(室内)



ルームの利用目的を記載したサイン(室内・室外)

## 2.3.4 利用実績

利用が確認できた回数は500回だった。カームダウン・クールダウンルームが想定している利用理由の「気持ちを落ち着かせたい等」での利用は54回で全体の約11%、利用理由が把握できた332回の約16%だった。月別では、厳しい暑さが続いた7月から9月の利用回数が多く、利用理由は「休みたい」「体調不良」「熱中症」「頭痛」を理由とした利用が多かった。また、「展示の映像・VRに酔った」の理由での利用も多かった。



利用時の付添者の有無は、「付添者有り」が290回、「付添者無し」が94回、「不明」が116回で、付添いの有無が確認できたうち約75%が付添者有り、約25%が付添者無しの利用だった。

利用時の付添の有無	回数
有り	290
無し	94
不明	116
計	500

カームダウン・クールダウンルームが想定している利用目的にあった利用の割合は低かったが、万博という特別な環境において暑さや展示体験で体調不良となった方が利用できたことは、すべての来館者が安心して楽しめることに貢献したと考えられる。

### 月ごとの利用実績と利用理由

単位：回

理由	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
気持ちを落ち着かせたい等								
休みたい	2	0	2	7	13	7	0	31
パニック・気持ちを落ち着かせたい	0	3	3	4	2	5	3	20
大きな音からの避難	0	0	0	0	0	2	1	3
小計(パニック等)	2	3	5	11	15	14	4	54
体調不良等								
体調不良	3	6	7	39	55	29	14	153
展示の映像・VRに酔った	0	1	5	6	10	5	2	29
熱中症	0	0	0	2	9	7	0	18
足が痛い	0	0	1	5	5	1	3	15
頭痛	0	0	0	1	5	5	0	11
鼻血	0	2	1	2	3	1	0	9
吐き気・嘔吐	0	0	1	2	1	3	0	7
つわり(妊婦)	0	0	2	3	2	0	0	7
腰痛	0	0	1	0	1	2	1	5
子どもがぐずった	0	0	0	1	1	2	0	4
めまい	0	0	0	1	0	3	0	4
貧血	1	1	0	1	1	0	0	4
腹痛	0	0	0	1	0	1	1	3
その他	0	0	1	2	2	2	2	9
小計(体調不良等)	4	10	19	66	95	61	23	278
不明	0	14	35	51	41	25	2	168
計	6	27	59	128	151	100	29	500